

四谷の

千枚田だより



第 275 号

私は鞍掛山麓千枚田保存会、内閣府地域活性化伝道師、市環境審議会委員として参加、事前に提出

第十五回 中部環境先進五市

サミットin飯田

七月十日、飯田市産業振興・人材育成基盤施設を会場に関係都市の首長、住民代表などが一堂に会し開催された。

午前中は市民ワークショップ(二十四団体参加)が「想いを未来につなげよう」中部環境先進五市から発信するメッセージに基づき班分け、闊達な意見交換がなされた。



した準備シートをもとに原点「継続は力なり」をキャッチフレーズに「四谷の千枚田」を地域の宝と位置づけ、活動三十五年。活動多様性に富んだ豊かな里地里山づくり&コミュニティ・生きものと共生した体に優しいユメづくりの実践。地元小学校、調理製菓専門学校、企業を取り込んだ稲作体験や環境学習、自然観察会の実施。「四谷の千枚田」全部をビオトープ(生きものの空間)と位置付けた田んぼの生きものの自然再生。生きものの生息の場であつた棚田も、農薬などの乱用により水生昆虫などが極端に減少、「減った、減った」と口ばかりでなく「手心を加えれば、必ず蘇る」を理念に実施。モリアオガエル、ヤマアカガエル、タニシ、ホタルなどの再生を試みた。成果 田んぼでは、オタマジャクシが遊泳、ヘビやイモリから回避する遊泳行動が除草効果に繋がったり、成長したカエルはヘビが追い、ヘビも猛禽類の捕食対象に「生きものの共生の場」となった。また、カエルは稲に上り害虫駆除に貢献するなど、多様性に富んだ四谷の千枚田の自然環境の構築に寄与した。モリアオガエルリギリスBIO長期取材―世界発信、小学校教科書道徳読本に掲載。生物多様性条約締約国会議(COP10)愛知・名古屋招致活動に貢献。「四谷の千枚田だより」

の発行。(現在 273 号)

課題①「国民の宝」と評価される棚田の保存継承に邁進する棚田の耕作者も、高齢化と害獣被害に耕作意欲の喪失が危惧される。(イノシシ、サル、ニホンジカなどの食性の進化)②ここ数年、気候変動が大きく、環境のすべてに影響が感じられる。(昨年・今年の令和の大渇水、線状降水帯など)③里地里山の森林化が進み、湧き水等の減少、枯渇が顕著である。(2000年代からの流量は1/3に減少)

取組み及び必要性①Uターン、Iターンに住める環境の構築。害獣対策の推進。②気象変動に柔軟に対応できる環境の構築。③森林の適正管理、広葉樹の植栽推進などを議論材料とした。

午後のサミットでは五市の首長が壇上でこれまでの取り組みや成果(お国自慢)をTASKIの順でプレゼン、多治見市(T)「市民参加」これまでの環境施策の歩みと今後の展望。安城市(A)市民ぐるみのごみ減量の成果や、紙おむつのリサイクル実験。新城市(S)下江市長は地域資源や前回ホスト市としての経験を交え、持続可能なまちづくりの想いを発表。ゼロカーボンシティ・ネイチャーポジティブ宣言、森林保全の推進。事例として横浜ゴム新城工場生物多様性チームの主導で産官民連携により四谷の千枚田に繁茂する外来植物(アメリカセンダングサ)の駆除作戦など。掛川市(K)伝統的な環境調和型の施策、これまでの成果。飯田市(I)環境で飯が食える街を目指したい。と報告。TASKIみらい共同宣言要約



中部環境先進五市(多治見市、安城市、新城市、掛川市、飯田市)は、県境を越え、環境分野を中心に多様な取組を連携して進めてきた。これまで行ってきた中部環境先進五市サミット定期開催は十五回の開催で幕を下ろし、区切りをつけ、新たなステージに移行する。サミットで示された意義を継承し、行政、市民、事業者といった多様な主体が引き続き協力しながら、地域のニーズに即した発展を目指していくため、次の基本方針を共有し、連携・協力して取り組むことを共同宣言した。

余談ではあるが：サミット会場は旧飯田工業高校の跡地を「産業振興と人材育成の拠点エス・パード」として活用。高校生の学び舎らしく、超急な階段をそのまま、体育館などをリニューアルした施設で、すごく新鮮に感じた。流石 武田信玄 ♡

念仏踊り

天竜川すじに伝わる念仏踊り（遠州大念仏や南信州・三遠信地域の念仏踊りなど）のルーツは、平安中期、空也上人が「南無阿弥陀仏」の念仏を唱えながら歩いて人々に信仰を広めたのが原点と云う。鎌倉時代に一遍上人が鉦や太鼓を打ち鳴らしながら踊るスタイルが全国の民衆に爆発的に普及、民俗芸能が往来する回廊である信州（南信）や遠州、三河の山間部などの地域へ念仏や祭祀形態がもたらされた。地域の展開と目的精霊供養（初盆の慰霊）などに代表されるように、初盆を迎えた家々を巡って亡き霊を慰める宗教的・地域的な行事として定着した。私たちの住む旧海老町で念仏踊りが行われた集落は、大代・大林・身平橋・与良木・方瀬・真菰・入洞・川壳・須山、山中などであり、現在では身平橋（西組共進連）と方瀬・真

菰（方真連）のみである。何れの集落も少子化の影響で「若い衆」不足が深刻化、与良木組は昭和三十年に、大代・大林組は平成七年にそれぞれ、若い衆が下駄を預かった。

新仏、本尊様供養の順序

事例 初盆（庭受け）身平橋組

○入り庭 行列は高張・中老・笛・太鼓・鉦・高張の順に初盆宅の上坂を庭先まで「道行」を、上坂が長い場合は「祇園囃子」で進む。庭受けした施主や親戚衆は門で出迎える。

（昭和三十年代には小中学生が「道行」の途中から「数え唄」で舞い込みを行ってきたが、少子化で自然消滅）。○庭では「二上り」（庭借りとも云った）で「輪づくり」を、笛と鉦は列外に出る。続いて「岡崎」、「しゃんぎり」、「四つ拍子」、「十六拍子」などで「はね込み」を行う。○中老衆は新仏に「念仏」をあげる。と、施主や親戚衆は仏前に座って神

妙に念仏を受ける。○「取り唄」は中老衆が唄い、若い衆が太鼓と鉦で跳ねる。その時、笛はない。○手踊りは若い衆の音頭出し「♪踊らまいかよ三人でなりと♪」で「輪づくり」、「御嶽」、「おさま甚句」、「十六踊り」、「やんさ」、「とよえ」、「しよんがいな」、「ちよいいなちよいな」最後に「数え唄」で鉦が入り手踊りは終わる。○引き庭の合図に「大拍子」（笛はない）を、「しゃんぎり」、「四つ拍子」、「十六拍子」などを跳ねる。その時、親戚衆やコケ好きな連中も跳ねたりする。○中老衆の念仏。○太鼓の中打ちのみの「出の岡崎」○引き庭「道行」施主や親戚衆は門で見送る。

身平橋組の伝承文化「念仏踊り」を、むら人として継承。その一連の流れ、変遷を記憶から辿ってみた。

お知らせ 八月十四日、念仏踊りが海源寺で行われる。



作柄予想

気象庁は、四十℃以上の日を気象用語として酷暑日を正式に決定。千枚田の稲作も幼穂形成期以降、暑い日が続き、今のところウンカもカメムシも、あまり姿もなく、すこぶる順調に推移している。ただ、昨年被害が顕著であった植食動物のニホンジカやサル軍団が「千枚田のコメは旨い」と来なければよいが、きつと、来る。困ったものだ…

行 令和八年 八月十五日
鞍掛山麓千枚田保存会
発 文 責 小山 舜二



愛知万博出演 2005.5.30 / 7.1